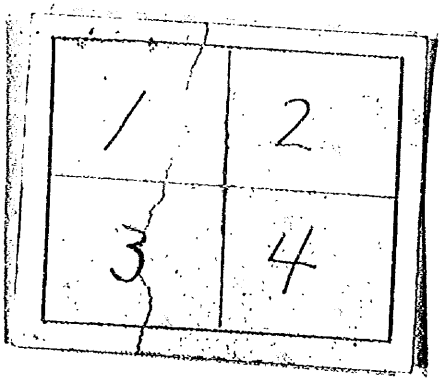
分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3判以上のため

上記のとおり分割撮影した事を証明する。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0888
0889
0890
0891
0892

所屬 第一方面軍軍直 第一二二師團

部隊名 歩兵第一二六聯隊

通稱號 滿洲 員數 一二〇六三

郵便所名

全般概要	轉入 十九年以降	轉出 十九年以降	編制員	隊別	隊長名	開戰時員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留	收容所名
			189	第三大隊本部	大尉 佐々木利美	300			陣地構築中開戰	九、四 間島に於て作業第二八一大隊編入	九、二二 愛河經由ビロビジャン地區チョブローゼへ				
			1020	第七中隊	中尉 磯野 巖	172			鏡泊湖にて陣地構築戰斗資材整備中開戰 八、一二 野砲部隊として東京城に出發 九、一 南湖頭に於て武裝解除	終戰後（終戰は昭和二十年八月十七日夜中知つたので終戰見集の目的で八月二十五日芝田少尉以下二才半地出發 南湖頭東北方六粁附近で野營中の「ソ」軍と交戰 損害はなかつた）					
				第八中隊	少尉 篠原 一郎										
				第九中隊	少尉 倉田 次郎										
				第三機關銃	少尉 鷲見 務				指揮班 機關銃小隊 彈藥分隊 大隊砲小隊 彈藥分隊よりなる						

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0888
0889
0890
0891
0892

所屬 第一方面軍軍直 第一二二師團

部隊名 歩兵第一二六聯隊

通稱號 第一二〇六部隊

郵便所名

全般概要	轉入 十九年以降	轉出 十九年以降	編制員	隊別	隊長名 ()内は先代を示す	開戰時員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留	收容所名
			189	第三聯隊	少尉 慈見 務				指揮班 機關銃小隊 彈藥分隊 大隊砲小隊 同隊 彈藥分隊よりなる						
				第九中隊	少尉 倉田 次郎										
				第八中隊	少尉 篠原 一郎										
				第七中隊	中尉 磯野 巌 第二師團長子爵土肥原賢二				愛泊湖にて陣地構築戰斗資材整備中開戰 八、一二 對空部隊として哈爾濱に出發 九、一 南湖頭にて武裝解除						
			1020	第三大隊本部	大尉 佐々木利美	300			陣地構築中開戰	九、四 瑞穂に於て作業第二八一大隊編入	九、二二 愛河經由ビロビジャン地區チョブローゼへ				

国立公文書館アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

部隊名歩兵第二六六聯隊

通稱號 滿洲眞鶴 二〇六三部隊

郵便所名

編制員	隊別	隊長名（）内は先代を示す	開戰時員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留	收容所 收容所名	收容所 所員	收容所 死亡	歸還人員 滿洲より	歸還人員 「ソ」領より	歸還人員 計	狀況不明者數
1020	第三大隊本部	大尉 佐々木利美	300			陣地構築中開戰	九、四 國境に於て作業終二八一大隊編入	九、二二 愛河經由ビロビジャン地區チコブローゼへ										
189	第八中隊	中尉 磯野 毅（第三大隊長少尉兼務） 少尉 篠原 一郎				鏡泊湖にて陣地構築戰斗資材整備中開戰 八、一二 空部隊として東京城に出發 九、一 南湖頭にて武裝解除												
	第九中隊	少尉 倉田 次郎																
	第三機關銃隊	少尉 笹見 務				指揮班機關銃小隊彈藥分隊大隊砲小隊同斯藥分隊となる												

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

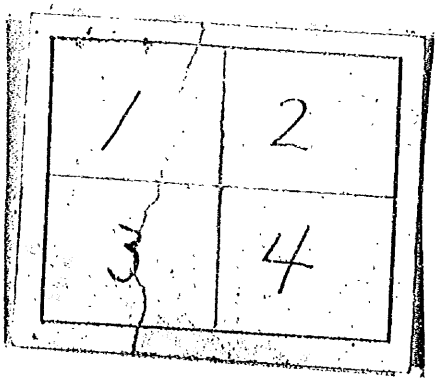
			1020	部本隊大三第	天候 曇々不定深	300							
				隊	中尉 [illegible]								
			189	隊中心第二	少尉 [illegible] 一郎								
				隊中九第	少尉 [illegible] 次郎								
			219	隊中銃機総三第	少尉 [illegible] 務								
				隊小砲兵歩三第									

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三大隊本部	第[illegible]隊	第八中隊	第九中隊	第三機銃中隊	第三歩兵砲小隊
1020	189			219	
中尉 機野 毅 第二機銃分隊長[illegible]		少尉 篠原 一郎	少尉 倉田 次郎	少尉 鷲見 務	
300					
鎮泊湖にて陸軍機関銃小隊[illegible] 八、一二 第三部隊として[illegible] 九、一 南湖頭にて武装解除				指揮班機関銃小隊弾薬分隊大隊砲小隊同弾薬分隊となりたる	
九、二二、 機関銃[illegible]ロシヤヘ移管 チコドロ・ヤイ					

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3判以上のため

上記のとおり分割撮影した事を証明する。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0893
0894
0895
0896

所屬 第一方面軍軍直
第二二二師團

部隊名 歩兵第二六六聯隊

通稱號 滿洲 眞鶴 二二〇六三 部隊

郵便所名

全般概要	轉入 十九年以降	轉出 十九年以降	編制人員	隊別	隊長名 ( )内は先代を示す	開戰時員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留	收容所
				通信中隊											
				歩兵砲中隊	中尉 酒井 長七 少尉 引地 寛	140～160			陣地構築中開戰 九、一 南湖頭にて武裝解除	行方不明一名					
				乘馬小隊											
				聯隊行李											

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

部隊名 歩兵第二六六聯隊

通稱號 滿洲二二〇六三部隊

郵便所名 鶴

編制人員	隊別	隊長名 (）内は先代を示す	開戰時員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留	收容所 收容所名	收容所 所人員	收容所 死亡	歸還人員 滿洲より	歸還人員 「ア」領より	歸還人員 計	狀況不明 者數
	通信中隊																	
	歩兵砲中隊	中尉 酒井長七 少尉 引地寛	140～160			陣地構築中開戰 九、一 南湖頭にて武裝解除	行方不明一名											
	乘馬小隊																	
	聯隊行李																	

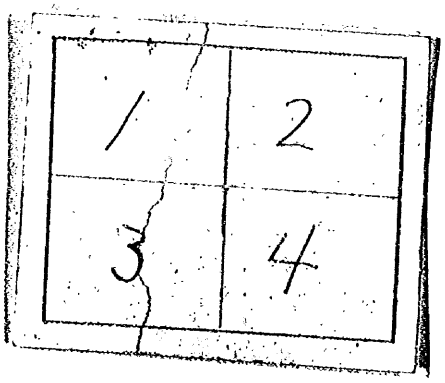
	李行隊聯	隊小馬乘	隊中砲兵歩	隊中信通
			中尉 酒井 長七 少尉 引地 寛	
			140～160	
			陣地構築中開戰 九、一 南湖頭にて試發際終	
				行方不明一名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

通信中隊	歩兵砲中隊	乗馬小隊	聯隊行李	
	中尉 酒井 長七 少尉 引地 寛			
	140～160			
	陣地構築中問題 九、一 南湖頭にて武器弾薬、			
	所方不明一名			

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3判以上のため
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0897
0898
0899
0900
0901
0902

所屬 第一方面軍軍直
第一二二師團

歩兵第一二六七聯隊

通稱號 滿洲 眞鶴 一二一部隊 一二〇六四部隊

郵便所名

全般概要	轉入 十九年以降	轉出 十九年以降	編制人員	隊別	隊長名 (　)内は先代を示す	開戰時員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 除別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留	收容
二〇、三、一五 編成部隊は樺林に駐屯、三月中旬より鏡泊湖南端に移地構築を實施開戰と同時に同地に全員集結陣地强化を圖る一部は寧安及京城附				聯隊本部	大佐 杉村 南平 副中尉 綱本 智		樺林	南湖頭							
二〇、六、一〇 寧安に集結中空襲を受け五名戰死す（一部寧安に移り一ケ大隊なり） 二〇、八、三一 左翼區召者に召解（八〇〇名）				第一大隊本部	大尉 飯田 又藏	100	樺林	南湖頭							
二〇、九、一 左翼區召者系に召解鏡泊湖にて武裝解除				第一中隊	中尉 大刀 豊	150 鮮系50	樺林	南湖頭							
九、四 蘭岡に收容され二ケ桃園組成	輜重二五聯隊 二〇、三、三〇	鐵道一九聯隊 二〇、五、三		第二中隊	中尉 田村 [illegible]	鮮系50	樺林	南湖頭							
九、一〇 被河に移動一ケ桃園は九、一五そのまゝ入ソ 他の桃園は解散 九、一二、被河にて作業二七八大隊（長 大尉 山崎正尚） 作業二六二大隊（長 大尉 飯田又藏）編成し入ソす	輜重五五大 二〇、三、三〇	臨時遊撃聯隊 二〇、六、一七													
一〇、一 山崎大隊ピロビジャン州ロンドコに收容される	輜重一二聯 二〇、三、三〇	東海軍管區 二〇、四、一九													
	獨輜重五三大 二〇、三、三〇	東部軍管區 二〇、四、一〇													
	歩七〇聯隊 二〇、三、三〇	歩四〇聯隊 二〇、三、三〇													
	歩四二聯隊 二〇、三、三〇	歩四三聯隊 二〇、三、三〇													
	輜重第五部隊 二〇、五、二一	東北直管師團 二〇、五、三〇													
	方面軍司 二〇、五、二	關東軍建設隊 二〇、五、三〇													
	歩四三聯隊 二〇、三、三〇	歩一四聯隊 二〇、三、三〇													
	滿洲第五部隊 二〇、五、二一	關東軍歩兵隊教育隊 二〇、六、二七													
	六〇兵站警備隊 二〇、三、三〇	機動砲兵一聯隊 二〇、三、三〇													
	歩四〇聯隊 二〇、三、三〇	山砲一五聯隊 二〇、三、三〇													
	野山砲一五聯隊 二〇、三、三〇	滿一三九三九部隊 二〇、六、五													
		滿一三九三部隊 二〇、六、九													
		滿九四三部隊 二〇、五、一三													

後留隊の行動
昭和二一年七月中旬後留者約千中約八百名は樺林から寧安に移動殘餘の百名中は寧安に移動。八月七日、曹長 [illegible]、軍曹 [illegible] 等後留約一百名中は寧安に移動殘餘の百名は樺林から敦化に本部を追つたが追ひ着けなかつた。敦化の行動は不詳

八、一〇 命令を受け後續部隊の通過完了まで橋梁確保の命令を受け
八、一三 空襲を受け橋梁破壞
八、一九 敵と待戰しつゝ後退東京城まで
八、二三 終戰となる同地にて武裝解除
八、二四 東京城發
八、二八 綏河作業第一大隊編入
九、二六 綏河出發
一〇、一 ピロビジャン州ロンドコに收容
獨歩の兵舍に收容され次いで二見開拓團へ移動
作業大隊編入
作業大隊編入
作業大隊編入
作業大隊編入

計	滿洲殘留	收容名
100名	一、病氣 主井中尉	ロンドコ ピラカン（病弱者の收容中）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0897
0898
0899
0900
0901
0902

所屬 第一方面軍軍直

第二二六七聯隊 部隊名表

通稱號 滿洲第二二〇六四部隊

郵便所名 眞鶴

全般概要	轉入 十九年以降	轉出 十九年以降	編制人員	隊別	隊長名 (　)内は先代を示す	開戰時員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留	收容
二〇、三、一五 編成部隊に樺林に駐屯、五月中旬より鏡泊湖南端に陣地構築を實施開戰と同時に同地に全員集結陣地强化を圖る一部は寧安現京城營備 二〇、八、一〇 寧安に集結中空襲を受け五名戰死す（一部寧安にあり一ケ大隊なり） 二〇、八、三一 左記歸還者に召解（八〇〇名） 二〇、九、一 左記應召鮮系は召解鏡泊湖にて武裝解除 九、四 寶岡に收容され二ケ梯團編成 九、一〇 拔河に移動一ケ梯團は九、一五そのまゝ入ソ他の梯團は解散 九、一二、 拔河にて作業二七八大隊（長、大尉　山崎正尚）作業二八二大隊（長、大尉　飯田又藏）編成し入ソ 一〇、一 山崎大隊ピロビジャン州ロンドコに收容さる	編成一五聯隊 二〇、三、三〇 三二七 編成五三大 二〇、三、三〇 二七 編成一二聯 二〇、三、三〇 七二 編成五三大 二〇、三、三〇 一一六 歩七〇聯隊 二〇、三、三〇 四三八 独四〇聯隊 二〇、三、三〇 四八三 歩一四聯隊 二〇、三、三〇 一八一 歩四二聯隊 二〇、三、三〇 二五 歩四三聯隊 二〇、三、三〇 二三三 六〇兵站警備隊 二〇、三、三〇 一〇九 機動砲兵一聯隊 二〇、三、三〇 一八八 山砲一五聯隊 二〇、三、三〇 九五六 野山砲一五聯隊 二〇、三、三〇 一八九	編成一九聯隊 二〇、五、三 四、二六 臨時遊擊聯隊 二〇、六、一九 二五 東港軍管區 二〇、四、一九 四 東部軍管區 二〇、四、一〇 一四 關東軍建設部 二〇、五、二七 一三 東北軍管區司令部 二〇、五、二七 五 編成第五部隊 二〇、五、二 二 方面軍司令部 二〇、五、二 六 滿洲第五部隊 二〇、五、二一 二六 關東軍歩兵聯隊部教育隊 二〇、六、二 四 滿一三九三部隊 二〇、六、五 一 滿一三一九三一部隊 二〇、六、九 二 機動歩兵一聯隊 二〇、六、五 一 滿九四三部隊 二〇、七、二〇 一 同九、二〇 二 滿九四三部隊 二〇、五、一 三	聯隊本部	大佐 杉村南平 副中尉 綱本智											
				第一大隊本部	大尉 飯田又藏	100	樺林	南湖頭							
				第一中隊	中尉 大刀豊	150 鮮系 50	樺林	南湖頭							
				第二中隊	中尉 土井喜四郎	150 鮮系 50	樺林	東京城	八、一〇 命令を受け後續部隊の通過完了まで橋梁確保の命令を受け 八、一三 空襲を受け橋梁破壊 八、一九 敵と往戰しつゝ後退東京城まで 八、二三 終戰となる同地にて武裝解除	獨歩の兵舎に收容され次いで二見開拓團へ移動					
				第三中隊	中尉 田村美秋	鮮系 50	樺林	南湖頭			東京城編入				
											東京城編入				
											東京城編入				
											八、二四 東京城發 八、二八 拔河作業第一大隊編入 九、二六 拔河出發 一〇、一 ピロビジャン州ロンドコに收容				
											東京城編入				
													100 名	一、病氣 土井中尉	ロンドコ ビラカン（病弱者の收容中）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

部隊名 歩兵第二六七聯隊

通稱號 滿洲眞鶴 一二二部隊 一二〇六四部隊

郵便所名

編制人員	隊別	隊長名 (）内は先代を示す	開戰時員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留	收容所 收容所名	收容所 所員	收容所 死亡	歸還人員 滿洲より	歸還人員 「ソ」領より	歸還人員 計	狀況不明者數
	聯隊本部	大佐 杉村 南平 副中尉 網本 一智		樺林	南湖頭			第二九九、七九高作第三八大隊（長中路 高橋正南）編入、ウラジミロフカ、ボゴロドツコエ、ボゴロドツコエ										
	第一大隊本部	大尉 飯田 又藏	100	樺林	南湖頭			高作大隊編入										
	第一中隊	中尉 大刀 豊	150 鮮系 50	樺林	南湖頭			高作大隊編入										
	第二中隊	中尉 土井喜四郎	150 鮮系 50	樺林	東京城	八、一〇 命令を受け後續部隊の通過完了まで橋梁破壞の命令を受け 八、一三 空襲を受け橋梁破壞 八、一九 敵と接戰しつゝ後退東京城まで 八、二三 於磯となる同地にて武裝解除 損害戰死約三名	獨歩第一六四大隊の兵舍に收容され次いで二見開拓團へ移動	八、二四 東京城發 八、二八 淡河作業第一大隊編入 九、三〇 故河田發 一〇、一 ピロビジャン州ロンドコに收容 高作大隊編入										
	第三中隊	中尉 田村 [illegible]	鮮系 50	樺林	南湖頭			高作大隊編入										
									計	100名	一、病氣 土井中尉	ロンドコ ビラカン（病弱者の收容中）	10.80	2.2		3		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| | | |

隊	指揮官	兵員	馬	車	備考
聯隊本部	聯隊長				
聯隊本部	大尉 飯田又藏				
第一大隊本部		100			
第一中隊	中尉 大刀豊	150 鮮系 50	樺林	南湖頭	
第二中隊	中尉 土井喜四郎	150 鮮系 50	樺林	東京城	八、一〇 命令を受け後續部隊の通過完了まで橋梁確保の命令を受け 八、一三 空襲を受け橋梁破壊 八、一九 敵と接戦しつゝ後退京城まで 八、二三 終戦となる同地にて武裝解除 損害戦死約三名
第三中隊	中尉 田村	150 鮮系 50	樺林	南湖頭	
銃中隊		150 鮮系 50	樺林	南湖頭	部二〇、九、一、南湖頭で武裝解除

機歩の兵舎に攻撃され次いで二見開拓團へ移動

第二七八大隊（長中尉高橋正尚）編入	第三〇八分所へ	第三〇四分所へ	第三〇〇分所へ	第三〇八分所へ 三十五名

主力部隊編入	八、二四 東京城發 八、二八 波河作業第一大隊編入 九、二六 拔河出發 一〇、一 ピロビジャン州ロンドコに攻撃	主力部隊編入	主力部隊編入

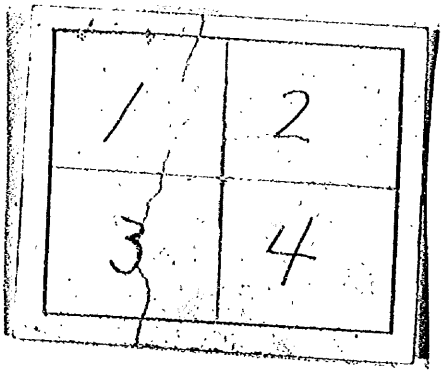
100名	一、病氣 土井中尉	ロンドコ ビラカン （病弱者の收容中）	ビーサ ピロビジン ロンドコ ムリー

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

隊中銃	第三中隊	第二中隊	第一中隊	第一大隊本部	聯隊本部	聯隊本部
	中尉 田村 美秋	中尉 土井喜四郎	中尉 大刀豊	大尉 飯田又藏		聯隊長 綱本
150 鮮系 50	150 鮮系 50	150 鮮系 50	150 鮮系 50	100		
樺林	樺林	樺林	樺林	樺林	樺林	樺林
南湖頭	南湖頭	東京城	南湖頭	南湖頭	南湖頭	南湖頭
南湖頭		八、一〇 命令を受け後衛部隊の通過完了まで橋梁確保の命令を受け 八、一三 発令を受け橋梁破壊 八、一九 敵と接戦しつゝ後退東京城まで 八、二三 終戦となる同地にて武装解除				
		獨歩の兵舎に収容され次いで二見陽右岡へ移動				
	事務系隊編入	事務系隊編入 八、二四 東京城發 八、二八 淡河作業第一大隊編入 九、二六 牧河出發 一〇、一 ピロビジャン州ロンドコに收容	事務系隊編入	事務系隊編入		
		100名				
		一、病氣 土井中尉				
		ロンドコ ビラカン （病弱者の收容中）			カバタマコ ビーサン ピロビヂャン コンドコ ムリー	
99		10.80				
		2.2				
		3				

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3判以上のため

上記のとおり分割撮影した事を証明する。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0903
0904
0905
0906
0907
0908

所屬 第一方面軍軍直
第二二二師團

第一二六七聯隊

通稱號 滿洲 眞鶴 一二〇六四部隊

郵便所名

全般概要

轉入 十九年以降	轉出 十九年以降	編制人員	隊別	隊長名 (〇)内は先代を示す	關人戰時員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より	入「ソ」人員 隊別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留	收容所
總軍一聯隊 二〇、三、三〇 一三	第三大隊本部 二〇、五、二 一		第一歩兵砲小隊	少尉 飯田 勤				戰死 昭二十年八月二十日頃南湖頭に集結 八月二十三日武裝解除（谷口聯三行方不明）	戰死約五一名					
陸兵七五聯隊 二〇、三、三〇 三六	第五部隊 二〇、五、 一													
水勤西一中 二〇、三、三〇 四五	滿一三九三部 二〇、六、五 一													
九九兵站病院 二〇、三、三〇 二七	チヽハル特務機關 二〇、六、一五 一													
七一兵站病院 二〇、三、三〇 二二	突擊大隊要員 五、二〇 二〇〇		第二大隊本部	少佐 松井 治										
牡丹江第四陸軍病院 二〇、三、三〇 七														
其の他 二〇、三、三〇 一〇六														
20/4 鮮系 二〇〇			第五中隊	中尉 土井 昌男										
5/4 在滿應召 一〇〇〇														
5/8 鮮系 二〇〇														
			第六中隊	中隊 大不義										
			第七	中隊長代理 見士 勝良										

方（百二十名）は南湖頭西方四粁の山麓で津地構築作業を實施
一日南湖頭で武裝解除（約百十五名）
戰後は昭和二十年八月十日奉天より合流

約四中名作業二七八大隊（長中隊長藤島）編入
「ソ」地区方三四名
三〇八名合計へ

飯田大隊編入

飯田大隊へ編入

国立公文書館アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0903
0904
0905
0906
0907
0908

所屬 第一方面軍第一二二師團

部隊名歩兵第二六七聯隊

通稱號 滿洲鶴 一二二部隊 二〇六四部隊

郵便所名

全般概要	轉入 十九年以降	轉出 十九年以降	編制人員	隊別	隊長名 (）内は先代を示す	開戰時員	平時	戰時	駐屯地	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」入員 隊別	計	滿洲殘留	收容
	輕車一聯隊 二〇、三、三〇 一三	第三大隊本部 二〇、五、二 一		第一歩兵砲小隊	少尉 [illegible]											
	聯兵七五聯隊 二〇、三、三〇 三六	第五部隊 二〇、五、 一														
	水戰四一中 二〇、三、三〇 四五	滿一三九三部 二〇、六、五 一														
	九九兵站病院 二〇、三、三〇 二七	チヽベル特務機關 二〇、六、一五 一														
	七一兵站病院 二〇、三、三〇 二二	突擊大隊要員 五、二〇 二〇〇		第二大隊本部	少佐 松井 治											
	牡丹江第四陸軍病院 二〇、三、三〇 七															
	其の他 二〇、三、三〇 一〇六															
	20/4 鮮系 二〇〇			第五中隊	中尉 土井 昌男											
	5/4 左清應召 一〇〇〇															
	5/8 鮮系 二〇〇			第六中隊	中隊 大不義											
				第七	中隊長代理 見玉 縣 政											

特記事項
（百二十名）は南部方面の山岳で陣地構築作業を實施
滿鐵になる殘留者は昭和二十年八月十日參戰より合流
一日南部方面で戰鬪經驗除（約百十五名）

国立公文書館アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

部隊名歩兵第二六七聯隊

通稱號 滿洲眞鶴 一二一部隊 一二〇六四部隊

郵便所名

編制人員	隊別	隊長名 (()内は先代を示す)	開戰時員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留	收容所 收容所名	收容所 所員	收容所 死亡	歸還人員 滿洲より	歸還人員 「ソ」領より	歸還人員 計	狀況不明 人數
	第一歩兵砲小隊	少尉 [illegible]						後田大隊編入約五一名 高橋 六名										
	第二大隊本部	少佐 松井 治						約四〇名作業二〇八大隊(長中隊高橋毛沼)編入 (「ソ」地五月三日四月三〇日入ソ合計)										
	第五中隊	中尉 土井 昌男						後田大隊編入										
	第六中隊	中尉 大不武						後田大隊へ編入										
	第七中隊	中隊長代理 見習士官 [illegible]																

(百二十名)は南滿頭方面の山岳で陣地構築作業を實施 (戰に殘留は昭和二十年八月十日奉安より合流 (約百十五名)

南滿頭で武裝解除

[illegible]

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

隊	職	氏名	備考
第一歩兵連隊小隊	少佐	松井 治	
第二大隊本部	中尉	土井 昌男	
第五中隊	中尉	大不武	
第六中隊	中尉	中藤長次郎	戦死
第七中隊			
第二機関銃中隊	中尉	安達 伸男	

（百二十名）は南満洲方面の山岳で陣地構築作業を実施戦になり後留隊は昭和二十年八月十五日南満洲で武装解除（約百十五名）

二〇、三、三〇
一三
陸軍七師団病院
二〇、三、三〇
三六
水戸陸軍一中
二〇、三、三〇
四五
九九兵站病院
二〇、三、三〇
二七
七一兵站病院
二〇、三、三〇
二二
牡丹江第四陸軍病院
二〇、三、三〇
七
其の他
二〇、三、三〇
一〇六
20/8 鉄系
二〇〇
5/8 左清廉君
一〇〇〇
5/8 鉄系
二〇〇

二〇、三、二
一
鉄道鉄路
二〇、三、
一
海軍第三鉄
二〇、六、五
一
チャベル修道
二〇、六、一五
一
突撃大隊要員
五、二〇
二〇〇

約四名（名簿第三八大隊（長中隊高藤毛島）編入「ハルビン」地区方三四名三〇八名合計）

銀田大隊編入

銀田大隊へ編入

銀田大隊編入

終戦三、四、三〇（ハルビン）移送

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

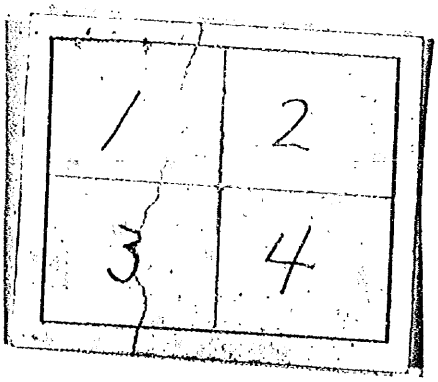
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

| | | |

除中錬闘隊二分	除中七	除中六	除中五	第一	部本除大二分	除小隊元気一分
中尉 安達 伸男		中尉 大木	中尉 土井 昌男		少佐 松井 治	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3判以上のため

上記のとおり分割撮影した事を証明する。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0909
0910
0911
0912

所屬 第一方面軍軍直
第二二二師團 部隊名 歩兵第二六七聯隊

通稱號 滿洲眞鶴 二〇六四部隊

郵便所名

| 全般概要 | | |

部隊名 歩兵第二一六七聯隊

通稱號 滿洲眞鶴 二二〇六四部隊

郵便所名

編制人員	190	140	200		
隊別	第十中隊	第九中隊	第三大隊本部	第二歩兵砲小隊	
隊長名 (一)丙は先代を示す	中尉 中田 [illegible]	少尉 大町 正年	大尉 戸田 三郎 (昭二〇.七.中旬ハルビン特別市尉官隊長ニ指名ス 副官ナル[illegible])	見玄、北川[illegible]紙	
開戰時員					
駐屯地 平時					
駐屯地 戰時					
戰斗間の狀況及損耗	戦解直前、在滿部隊編成ニ編入	服役ハ一八、編成後ノ人員約三〇〇人ニシテ、現地ニテ解隊ス 九一一戦解、四一五四五			
終戰後の人員變動					
作業大隊より入「ソ」迄の變動	約二五名作業ニ従ス大隊(長[illegible]高)編入 [illegible]地迄作業ニ従ス 八名分所へ	約一三四名作業ニ従ス大隊(長中隊[illegible]高)編入 [illegible]地迄作業ニ従ス 四四、作業ニ八名分所へ	九、一二 作業二七八大隊編入	書類[illegible]編入	堀田大尉編入
入「ソ」人員 隊別					
入「ソ」人員 計					
滿洲殘留					
收容所 收容所名					
收容所 所員					
收容所 死亡					
歸還人員 滿洲より					
歸還人員 「ソ」領より					
歸還人員 計					
狀況不明 者數					

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

180	190	190	190	200	
隊中銃機二第	隊中一十第	隊中十第	隊中九第	部本隊大三第	隊小砲兵步二第
中尉 上條欽二 中尉 藤橋	少尉 小倉 幸男	中尉 中田 [illegible]	少尉 大町 正年	大尉 戸田 三郎 (略ニ七字間八九ヒン[illegible]) 中尉 [illegible] [illegible]	
		服役ハ一分、勤務年ノ人数約三二〇人ニシテ、現役ニ在リ解除後四〇名九一戦解ノ為一五〇名			
	戦解直前ノ在籍者ハ全ク解ノ三五名				

[illegible]

約一三〇名作業二七八大隊(長高橋正高)編入 [illegible] 約一三〇名作業二七八大隊(長高橋正高)編入 [illegible] 約一三〇名作業二七八大隊(長高橋正高)編入 [illegible] 約一三〇名作業二七八大隊(長高橋正高)編入 [illegible]

九、一二
作業二七八大隊編入

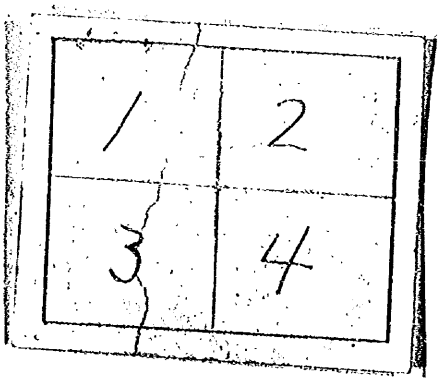
[illegible]

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

陸中第十九	陸中第十	陸中第九	部本隊大三第	除小隊兵歩二第
中尉 中田 [illegible]	少尉 小倉[illegible]	少尉 大町正年	大尉 戸田[illegible]三郎	
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3判以上のため

上記のとおり分割撮影した事を証明する。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0913
0914
0915
0916
0917

所屬 第一方面軍軍直
第二二二師團

部隊名 歩兵第二六七聯隊

通稱號 滿洲 眞鶴 二二〇六四部隊

郵便所名

全般概要	轉入 十九年以降	轉出 十九年以降	編制人員	隊別	隊長名 (）内は先代を示す	開戰時員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留	收容所
			130	馬乘小隊	少尉(兼任) 飯田 勳										
				通信中隊	隊長 中尉 川崎武彦 隊長 指揮官 軍曹 中村次郎 有線班 伍長 西垣善治 無線班 軍曹 岸田正廣										
			150	歩兵砲中隊	中隊 橋本 正治										
				第三歩兵砲小隊	見士 河本秀雄										
										高橋大隊編入	高橋大隊編入				
											約八〇名作業二〇八大隊（長中佐高橋正尚）編入 カムーリ地区方面ニ八月三〇日迄ニ全員帰ヘ				

国立公文書館アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0913
0914
0915
0916
0917

所屬 第一方面軍軍直 第一二二師團

部隊名 歩兵第二六七聯隊

通稱號 滿洲眞鶴 一二〇六四部隊

郵便所名

| 全般概要 | | |

部隊名 歩兵第二六七聯隊

通稱號 滿洲 眞鶴 一二一二〇六四 部隊

郵便所名

隊別	隊長名 (）内は先代を示す	開戰時人員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留	收容所 收容所名	收容所 所人員	收容所 死亡	歸還人員 滿洲より	歸還人員 「ソ」領より	歸還人員 計	狀況不明者數
第三歩兵砲小隊	見主 河本豪寛						高橋大隊編入										
歩兵砲中隊	中隊 橋本 正治						高橋大隊編入										
信中隊	川崎				駐モロハエ、在滿者二名		内八名作業二七八大隊（長中野高橋正雄）編入 ムーリー地区第三四第三八名分所へ										
乘馬小隊	少尉（兼任） 飯田 勳						高橋大隊へ編入										

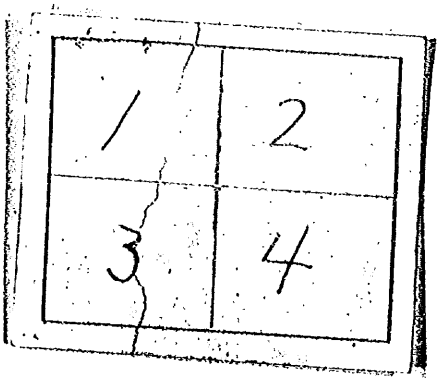
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

200		130		150		
第三歩兵砲小隊	歩兵砲中隊	通信中隊	乘馬小隊	聯隊行李		
高橋大隊ニ編入	中隊 橋本正治	隊長 中尉 川崎武彦 隊長 曹長 西田次郎 指揮班 曹長 中村正治 有線班 軍曹 岸出 無線班 軍曹 [illegible]	少尉(兼任) 飯田勳	中尉 山本[illegible]		
高橋大隊ニ編入	高橋大隊ニ編入	内八名作第二七八大隊(長中路高橋正高)編入 ハイリツ地区市三四市三八名分所ヘ	高橋大隊ニ編入	高橋大隊ニ編入		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

200	130	150		
輜重隊	乘馬小隊	通信中隊	歩兵砲中隊	第三歩兵砲小隊
中尉 山本 第一	少尉(兼任) 飯田 勤	隊長 中尉 馬場有 編纂 軍曹 曹長 川崎武彦 軍曹 曹長 岸西 田中 正治 欽治	中隊 橋本 正治	第三歩兵砲小隊
		編入ハ八三、在編者手帳参照一二名		

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3判以上のため

上記のとおり分割撮影した事を証明する。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0918
0919
0920
0921
0922

所屬 第二方面軍軍直 第一二二師團 部隊名 第一二二師團挺進大隊

郵便所名

通稱號 眞鶴一三九一三部隊

全般概要	轉入 十九年以降	轉出 十九年以降	編制人員	隊別	隊長名	開戰時員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 除別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留	收容
二〇、七月 寧安にて編成寧安附近の警備後鏡泊湖五〇人高地に於て陣地構築實施中隊戰 九、三 南湖頭に於て武裝解除一部（約五〇名）現地除隊 九、一〇 牡丹江に收容後牡丹江滿軍兵舎に收容 二〇、一〇、二五 牡丹江に於て第一〇作業大隊を編成（妹尾中尉） 二〇、一〇、三〇 牡丹江發經芬河ウオロシロフ經由二月一二日タイセツト地區ネープルスカヤ收容後三ケ分所に分散。少尉金谷保、須野原喜一は牡丹江市八達元の滿軍兵舎に收容中入院以後不明				大隊本部	少佐 齋藤喜一 副少尉 南 元澄 主大尉 中村									
				第一中隊	中隊長 大尉 高橋東一郎 小隊長（警備隊員不明） 曹長 丸山 勝廣 〃 鎌田彌榮 〃 金谷 保 〃 鯉川彌榮 〃 [illegible]	約335			二十年七月二十五日寧安で百二十二師團各聯隊より約五十名は燃料、電々關係者で鐵道補修に轉出又寧安の一部は同時に除隊させた						
				第二中隊	中隊長 大尉 田中 稔雄 小隊長 見士 〃 西野武夫 〃 梅原清二 〃 木村榮一 〃 澤芳龍 〃 林田良徳	約335									

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一方面軍軍直 第一二二師團 部隊名 第一二二師團挺進大隊

通稱號 眞鶴一三九一三部隊

郵便所名

所屬	全般概要	轉入十九年以降	轉出十九年以降	編制人員	隊別	隊長名	開戰時員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留	收容所名
	二〇、七月 寧安にて紅旗寧安附近の敵偵後鏡泊湖五〇八高地に於て陣地構築實施中開戰				大隊本部	少佐 齋藤喜一 副少尉 南 元澄 主大尉 中村										
	九、三 南湖頭に於て武裝解除一部（約五〇名）現地除隊															
	九、一〇 牡丹江に收容後牡丹江駐屯兵舎に收容				第一中隊	中隊長 大尉 高橋重郎 隊長（隊附大尉） 見主九州 勝美 〃〃 獨逸康憲一 〃〃 金本 博 〃〃 鯉川獨逸郎 淺尾和泉直行	約335									
	二〇、一〇、二五 牡丹江に於て第一〇作業大隊を編成（妹尾中尉）															
	二〇、一〇、三〇 牡丹江發綏芬河ウオロジロフ經由二月一二日タイゼット地區ネーブルスカヤ收容後三ケ分所に分散。少尉金谷保、須野原善一は牡丹江市八路元の滿軍兵舎に收容中入院以後不明				第一二中隊	中隊長 大尉 田中 稔 〃隊長見士 (1) 西野武夫 〃 (2) 梅原清二 〃 (3) 木村榮一 〃 (4) 澤藤能 〃 (5) 林田貞德	約335									

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

部隊名 第一二二師團挺進大隊　　通稱號 眞鶴一三九一三二部隊　　郵便所名

| 編制人員 | | |

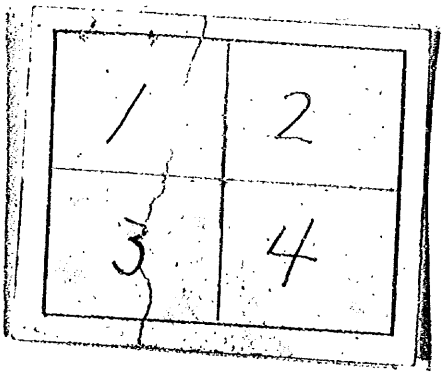
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

隊	中	第一	隊	中	第二	隊	中	第三	隊	中	第一	隊	本	部	大
約335		約335			約335			約335							

第三中隊	第二中隊	第一中隊	大隊本部
中隊長少尉 笹内正晴 小隊長 (1) 見習士官 稲葉新平 (2) 〃 金田藤雄 (3) 〃 鈴木義助 (4) 〃 蓮沼繁男 (5) 〃 福島忠雄 約335	中隊長少尉 田中稚雄 小隊長見習士官 (1) 西野武夫 (2) 柳原清二 (3) 木村榮一 (4) 湯浅義雄 (5) 林田貞雄 約335	中隊長少尉 高橋重郎 小隊長(隊副大尉) 見習士官 丸山勝廣 〃 〃 (1) 鶴岡康吉 (2) 金谷勝 〃 〃 (3) 鯉川鐵郎 濱田孫吉 約335	陸少將 南元造 主計大尉 中志

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3判以上のため

上記のとおり分割撮影した事を証明する。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0923
0924
0925
0926

所屬 第一方面軍軍直
第二二二師團　部隊名 第一二二師團制毒隊　通稱號 眞鶴一三九一七部隊　郵便所名

全般概要	轉入 十九年以降	轉出 十九年以降	編制人員	隊別	隊長名	開戰時員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留
編成されたが一隊員は内命を受け兵員も存在したが非常に遠隔の地(読谷山中)で活動不完全でその機能の發揮、人員の全部或いは一部が不完全(有)等未設足の[illegible]に終つた														

200

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

隊名第一二二師團制毒隊

通稱號眞鶴一三九一七部隊

郵便所名

隊別	隊長名（）内は先代を示す	開戰時員	駐屯地 平時	駐屯地 戰時	戰斗間の狀況及損耗	終戰後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別	入「ソ」人員 計	滿洲殘留	收容所 所名	收容所 所員	收容所 死亡	歸還人員 滿洲より	歸還人員 「ソ」領より	歸還人員 計	狀況不明者數

受け兵員も存在したが非戰鬪員で其の機能の發揮、人員の補充になつた

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp